

事業名

地域ぐるみの体験で、郷土への愛着と誇りを！

目標

地域の絆を大切に、若い世代につなげて発信！

1. 取組の視点

月ヶ瀬中学校区は、少子高齢が進むへき地小規模校（小学校 64 名中学校 47 名）です。固定化された生育環境に育つ子どもたちの視野を広げるため、様々な地域集団との交流体験の充実を図りました。また、教育条件の整備のため、保護者および地域住民の支援と協力を得て、地域ぐるみの教育支援活動を継続的に展開してきました。

2. 取組の概要

【地域環境整備】地域の行事前に環境整備作業を地域ボランティア、保護者、住民が継続的に行いました。地域の公共施設に花いっぱい運動を進めました。過去植えられた学校林を地域の方で整備し、桧でベンチを制作、公共施設に寄贈することが出来ました。

【アルミ回収活動】中学校が始めた活動を、地域の福祉協議会と手をつなぎ、地域内のアルミ缶を回収するグループ「愛歩21」を組織。継続的に



地域へ…ベンチ制作

活動を行い、アルミ缶回収活動を支援しました。2月には福祉フェスティバルにおいて、アルミ缶回収の実績を報告し、収益金で福祉施設に車椅子などを寄贈した。

【地域スポーツ事業】地域の絆を結び、交流するスポーツ事業が年間計画されています。6月レガッタ大会・9月スポーツフェスティバル・10月月ヶ瀬体育祭・1月月ヶ瀬一周駅伝大会・2月梅溪マラソン大会。行事を計画、運営するのはスポーツ協会始め、地域住民のボランティアスタッフである。地域の老若男女が集まりスポーツを通して

絆を結ぶ貴重な機会です。また、社会体育では綱引き、バレーボールやサッカー、野球と熱心にボランティアコーチが青少年指導に取り組み、練習

地域の方と鳥梅・紅花染め特産品開発、奈良で発表！



試合や公式戦に参加していただきました。

【地域文化伝達】地域には、狂言、尾山漫才等伝統芸能が残っています。小学校で学習し、伝承者としての自覚を育て「学習発表会」で披露。住民が楽しみにしています。中学校は奈良晒保存会の支援で「奈良晒学習・体験」、月ヶ瀬特有の鳥梅の「紅花染め」を、地域染織家の支援で行いました。特産品を開発し地域活性化を目指しました。大人と生徒が共に集い、伝統芸を受け継ぐ心を育てました。

【地域産業】茶振興協会は闘茶会を行い、子どもに茶業を伝えてくださいます。中学校では煎茶道を体験し、おもてなしの心を習い、全校茶会を実施しました。小学校は産業教育で大根・西瓜作りにかけた思いを、万年青年クラブの皆さんから習います。月ヶ瀬梅林保勝会の支援で保・小・中合同梅採りを実施しました。

3. 成果と課題

地域の合同行事、保・小・中合同行事により、固定化された集団からより豊かで自己変革の機会を与えられました。地域人材の活用により豊かな体験活動が出来ました。今後は支援して下さる若い層の方を募り、継続的に地域の方と人間性豊かで、たくましい子どもを育てていきます。今後も「月ヶ瀬」らしさを失わず、新たな切り口も加え、郷土愛を育み地域に貢献できる人材育成を目指します。

事業名

自己実現のための地域貢献・体験学習

目標

ふるさとを知り、ふるさとを体験し、ふるさとに貢献する。

1. 取組の視点

名勝月ヶ瀬梅溪と知られる本校区は、豊かな自然、文化を守ってきた先人が、絆を大切にしてきた地域である。近代化と共に、地場産業は衰退し、人口も町へと流失、活気がなくなってきました。そんな中、郷土の歴史・自然・伝統を確かめながら、郷土愛をつかみ、ふるさとを守る担い手としての自己実現をさせる教育活動を地域と共に実践しました。豊かな自然・文化・歴史とそれを守ってきた人の営みを知ることで、故郷への誇りを持たせ、伝統文化や産業を体験することで担い手としての自覚を持たせ、最終、地域に自分たちの出来ることで貢献出来ないかと、行動・発信を進めてきました。

2. 取組の概要

【ふるさとを知る】毎年「全校ふるさと学習」として、地域の歴史等の講話を聴き、これからの学習の動機付けとしました。その後、1年生は、地



場産業の茶・梅について学習しました。2・3年生は、校区を4つに分け、地域のボランティアガイドに案内してもらい、散策(月ヶ瀬WALK)し、自然・歴史・文化を体感しました。

【ふるさとを体験する】ふるさとを支えてきた、梅産業(梅干し・シロップ)茶業(茶摘み・手もみ茶・闘茶会・煎茶道)奈良晒(手織り)紅花染め(烏梅・染色・実験)地産地消(椎茸栽培・野菜作り・学校林保護)を行い、様々な体験をする中で、先人達が育て守ってきた伝統の技や心意気を知り、担い手としての自覚を持たせました。

【ふるさとに貢献する】

○アルミ缶回収…16年間実践。地域、ボランティア、生徒が一体となり、環境保全・福祉・地球温暖化防止活動。今年も車椅子4台を施設に寄贈。

○友愛訪問・あったかハートキャンペーン…一人暮らしのお年寄りを訪問、掃除や話しをする。訪問前後に手紙を送り、年間を通じてお年寄りとの交流を進めた。

○花いっぱい活動…寄せ植え、プランターを地域へ継続して寄贈。



○地域力活性化プログラム…月ヶ瀬の梅の発祥

のルーツを探る。「烏梅^{うばい}」を使っての紅花染めを再現、地域の方と共に紅花染めの製品を開発し月ヶ瀬を活性化しアピールする活動を行った。

○生徒発信…学習の成果、ボランティア活動を内外に発信。ユネスコスクールとして他校とTV会議で交流したり、外国の方との交流会でも発信した。紅花プロジェクトから、交通安全運動、東北の被災地支援活動も進めてきた。

3. 成果と課題

地域の支援を受けて、郷土を知り、体験を通して郷土愛を育みました。地域の支援に感謝すると共に、継続して活動が実施できるようESDの視点で進めたいです。「月ヶ瀬」らしさを大切に、生徒自らで考え、行動、発信できるよう主体性をつけさせていきたいです。

事業名

ふるさと月ヶ瀬に学ぶ（人・自然・歴史・産業から）

目標

地域を愛する子どもを育てる。

1. 取組の視点

少子化が進む本校においては、地域総ぐるみで、小規模校だからこそできる魅力ある学校作りを進めています。学校に対して常に協力的な地域の方々の力をお借りし本事業を進めてきました。年間 60 名をこえるゲストティーチャーを迎え、伝統芸能の継承、地場産業であるお茶や梅の学習、万年青年クラブの方々との交流等を進める中で、生まれ育った月ヶ瀬を愛する心が育つよう期待しています。

子どもや保護者により強い郷土愛を育むことが、将来本地域にとどまり、月ヶ瀬地区の担い手



になってくれることを願ってやみません。

2. 取組の概要

まず、本校区の特産品である「梅」を活用した梅干し作りに取り組みました。梅干しは、給食時に全校でいただく他、来校者にもプレゼントし本校の特色ある事業のアピールになりました。梅に関する学習は「烏梅作り」から「紅花染め」へと発展させ、染めあげた布を使った記念品を交流校である伊豆市月ヶ瀬小学校へも送りました。

伝統芸能の継承も行いました。地域の保存会の方々の熱心な指導を仰ぎながら、「尾山漫才」「狂言」の学習を行いました。地域に伝わる民話の劇などを盛り込んだ学習発表会でその成果を披露し、多くの方の感動を得ることができました。

「お茶」の学習では、手もみ茶体験や闘茶会を開

催しました。これも、地域で地場産業を支える農家の方々の協力によるものです。



そして、先輩に学ぶ事業として万年青年クラブとの交流を実施しました。この取組は、20年を超える歴史を持ちます。子どもの学びの場として効果をあげる場でもあり、万年青年クラブの方も参加して学校を身近な存在として感じてくれる絶好の場となりました。

3. 成果と課題

継続は力である。本校区の特徴を生かした本事業の取り組みは地域の方々にも「月ヶ瀬らしさが十分生かされている。」との評価を受けています。このことに甘んじることなく、伝統を重んじながらも新しい地域教材となるもの、例えば青年層の活用等を考えていかなければならないと考えます。

また、本年度の事業の成果として「校外学習のバス代補助」があげられます。奈良市といえども三重県に隣接する本校では、高額なバス代が保護者の負担となっています。市内の学校並みの費用で校外学習に出かけ、見聞を広めることができたことはとてもありがたいことです。

冒頭にも述べましたが、少子化に歯止めをかけるためには、ふるさとに学び、地域を愛する子どもを育てることだと考えます。そのためにも本事業の予算が欠かせないものとなっています。ぜひ、長期的に本事業を継続していただきたいと思えます。